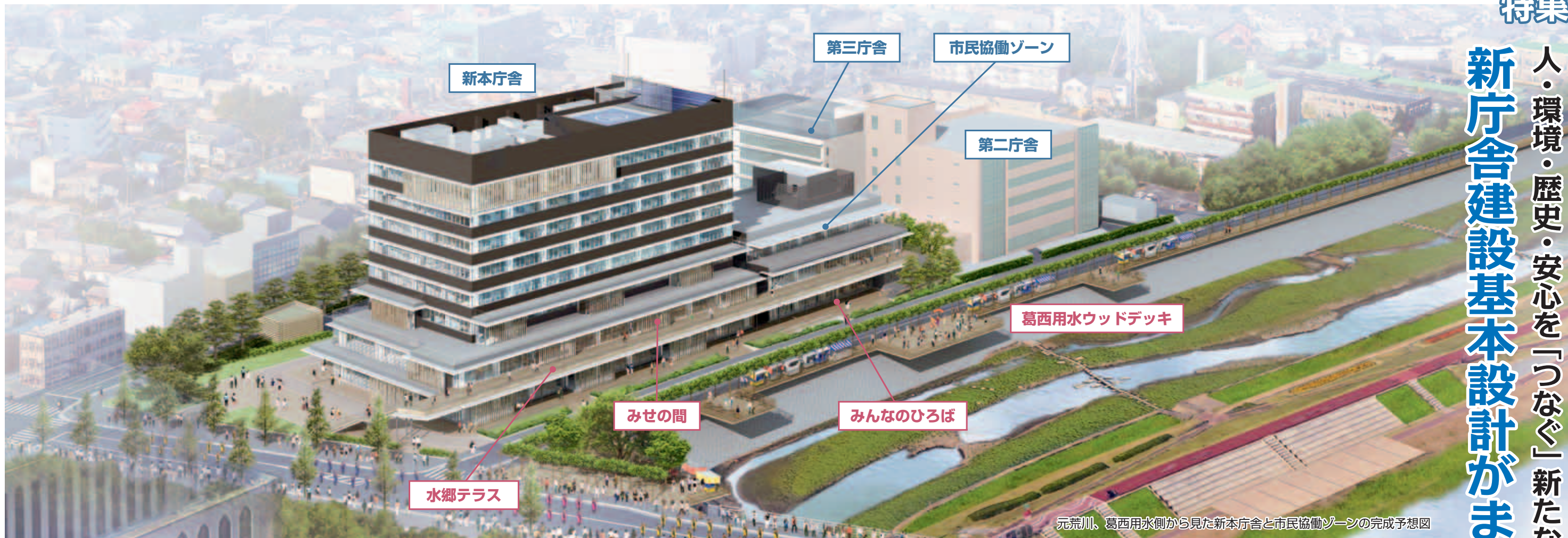


# 人・環境・歴史・安心を「つなぐ」新たな市庁舎を目指して 新庁舎建設基本設計がまとまりました



元荒川、葛西用水側から見た新本庁舎と市民協働ゾーンの完成予想図

市では、昭和44年に建設された市役所本庁舎の建て替えに向け、「越谷市民の安全・安心な暮らしを支える親しみのある庁舎」を目指し、7つの基本理念のもと、「越谷市新庁舎建設基本設計」を作成しました。

今号では、「越谷市新庁舎建設基本設計」を基に、市が目指す新たな庁舎の概要について紹介します。

問 庁舎管理課 ☎ 963-9134

## 市庁舎の現状と課題

現在の越谷市役所は、本庁舎・第二庁舎・第三庁舎の3棟で構成されています。



市民ワークショップでは、越谷らしさのある庁舎や利便性について意見が交わされた

本庁舎の建設から31年後の平成12年、市の発展や人口の増加による事務量の増加から第二庁舎が建てられ、さらに平成27年には、中核市移行による事務スペースの不足に対応するため第三庁舎が建てられました。

市役所の庁舎は、市民サービスを提供する場であるほか、議会や市民交流の場、災害発生時の防災拠点などさまざまな役割を持っています。しかし、建設から49年が経過している本庁舎には、建物の耐震性の不足やバリアフリー化への対応の不足などの課題があります。

また、平成23年に発生した東日本大震災や、28年の熊本地震を受け、災害発生時の市庁舎の重要性が再認識され、これらの課題を早期に解決する必要があります。

## 本庁舎の建て替えに向けて

市では、庁舎の課題解決に向け、平成25年に公募市民等で構成された「越谷市本庁舎整備審議会」を設置しました。1年半にわたる審議の結果、本庁舎は現在の市役所敷地内で建て替えることが望ましいという意見にまとまり、市はこれを受け「越谷市本庁舎整備基本構想」および「越谷市本庁舎建設基本計画」によって新たな本庁舎の建設の方向性や目標を定めました。

その後、計画の見直しや市民ワークショップの実施を経て、建物の構造や配置、各階のレイアウトや機能などを具体的に示した「越谷市新庁舎建設基本設計」を今年3月に作成しました。基本設計では、新たな本庁舎と（仮称）市民協働ゾーンの2棟を建設する予定です。

## 基本理念・基本方針

### 1 すべての市民に開かれた庁舎

- ①高齢者、障がい者、老若男女問わず容易に利用できるユニバーサルデザインを取り入れた庁舎
- ②来訪しやすく、憩える空間を備えた庁舎
- ③市民活動の場となる庁舎
- ④国際化社会に対応できる庁舎

### 2 機能性・効率性の高い庁舎

- ①事務効率・快適性の高い機能的な庁舎
- ②市民ニーズの変化に柔軟に対応できる庁舎
- ③高度情報化に対応し、セキュリティを強化した庁舎
- ④ライフサイクルコストを低減した庁舎

### 3 市民に親しまれ、まちづくりの拠点となる庁舎

- ①市民活動に活用される庁舎
- ②まちづくりや地域の活性化に貢献する庁舎

### 4 防災拠点機能を備えた庁舎

- ①災害に強い庁舎
- ②非常時に指令機能を果たす庁舎
- ③防災情報ネットワーク機能が充実した庁舎

### 5 越谷市に住むことが楽しく感じられ、愛着が持てる庁舎

- ①訪れることで越谷を知ることができる庁舎
- ②整理整頓され、職員が生き生きと働ける庁舎
- ③明るい未来をリードする越谷市を感じられる庁舎

### 6 環境にやさしい庁舎

- ①環境に配慮した庁舎
- ②再生可能エネルギーを採用した庁舎
- ③自然光や緑を取り入れた、人にも環境にもやさしい庁舎

### 7 越谷らしさを感じられる庁舎

- ①周辺環境・景観と調和し、「水郷越谷」らしさを感じられる庁舎

## 経過と予定

平成25年4月～26年9月	本庁舎整備審議会にて1年半にわたり審議を行い、現在の敷地内で建て替える方針を決定
平成26年9月	本庁舎整備基本構想を作成し、市が目指す理想の庁舎像の基本理念や、必要な機能、配置、規模などの指針を定める
平成28年3月	本庁舎建設基本計画を作成し、基本構想より具体的な目標や整備内容などを整理
平成28年10月	建設の早期実現に向けて取り組むため、本庁舎建設基本計画を改訂し、規模の縮小や事業費の削減、整備スケジュールの見直しなどを実施
平成29年1月～30年3月	市民ワークショップやパブリックコメントでの意見等を参考に、建物の構造や配置、備えるべき機能などの基本的な方針となる、新庁舎建設基本設計を作成
平成33年4月 (予定)	新本庁舎の供用開始
平成36年4月 (予定)	市民協働ゾーンの供用開始

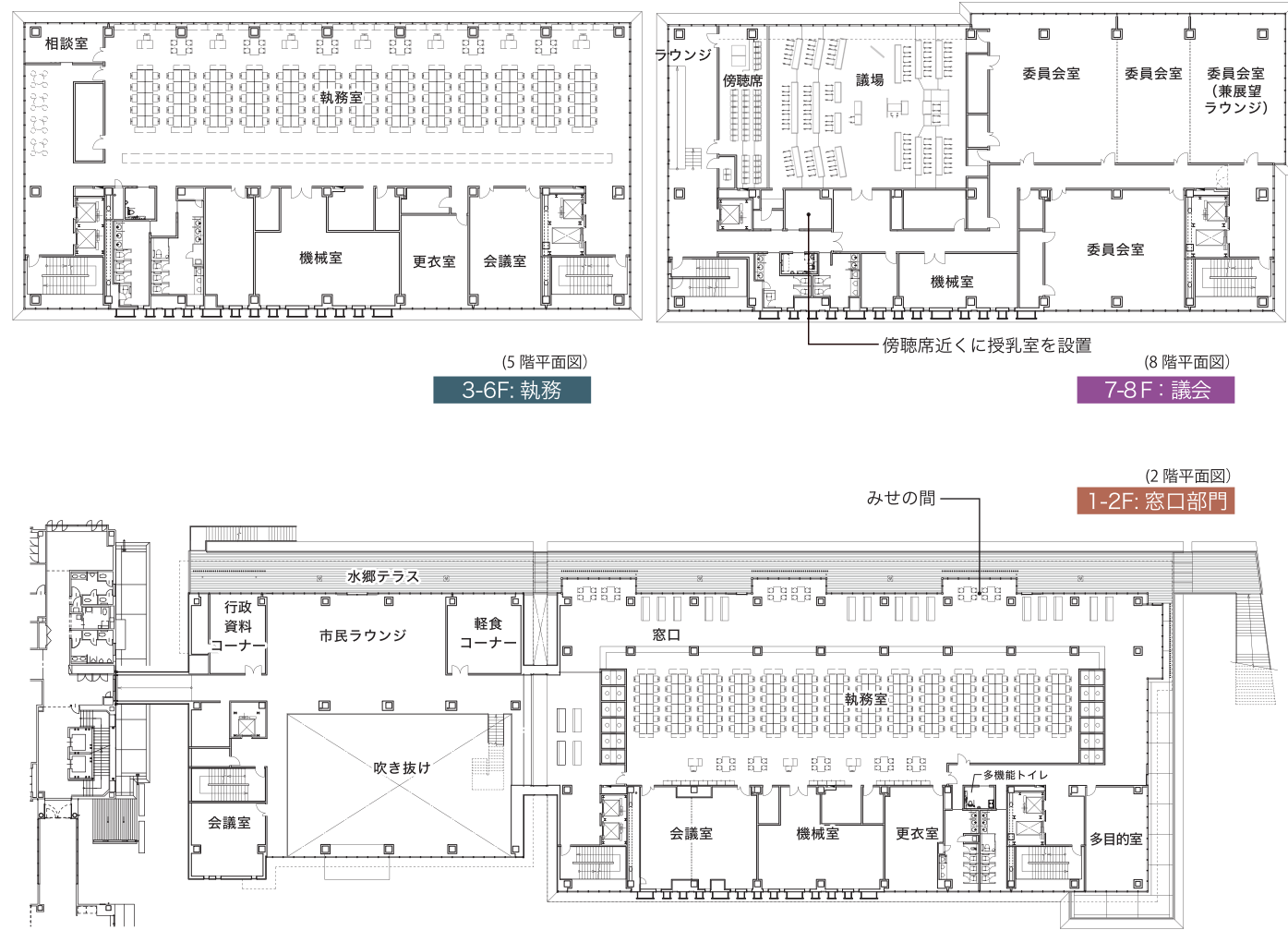


現在の市庁舎

特集

# フロアごとの目的に応じた平面計画

新本庁舎の執務室は、柱の制約の無いワンルーム型の執務空間を確保し、天井や天井ダクトを無くすことにより設備の落下防止や災害時の業務継続性を高めるほか、各フロアに多機能や幅広のトイレを設置するなど、機能性のあるフロアづくりを行います。また、8階の議場は子ども連れや車いすの方にも傍聴しやすいような配置とするほか、議会閉会時には一部の委員会室を展望ラウンジとして市民に開放するなど、開放性と独立性を備えたつくりとします。



新庁舎建設基本設計がまとまりました

# にぎわい創出の拠点となり、災害に強い 中核市越谷らしさのある庁舎



## 人と人をつなぐ みんなのひろば

市民協働ゾーンには、2階部分まで吹き抜けた大空間となるエントランスホール(みんなのひろば)を設けます。エントランスホールは、葛西用水ウッドデッキから水郷テラス、多目的ホールまで一体的に利用できるようにし、さまざまなイベントなどに活用することで、にぎわいを創出し、人と人をつなぎます。



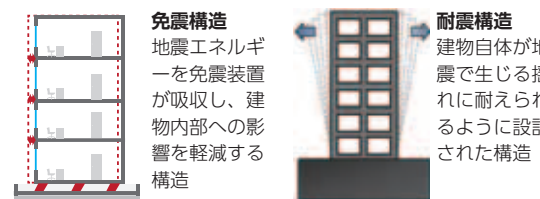
## 環境とつなぐ 水郷テラス

元荒川や葛西用水ウッドデッキなど既存の水辺環境を生かし、市民協働ゾーンと新本庁舎の1階・2階にテラスを設置します。テラスは隣接する藤だな通りと調和するデザインとし、葛西用水ウッドデッキと一体的ににぎわいを感じられるようにするほか、2階から元荒川や葛西用水の眺めを楽しんだりすることができる空間とします。



## 安心をつなぐ 防災拠点

新本庁舎は免震構造、市民協働ゾーンは耐震構造を採用するほか、電気等のインフラの多重化、執務室の無天井化などの対策によって、どんな災害が発生した時にも、越谷市の防災拠点として機能を発揮できるようにつくりとします。



## 越谷の歴史をつなぐ みせの間

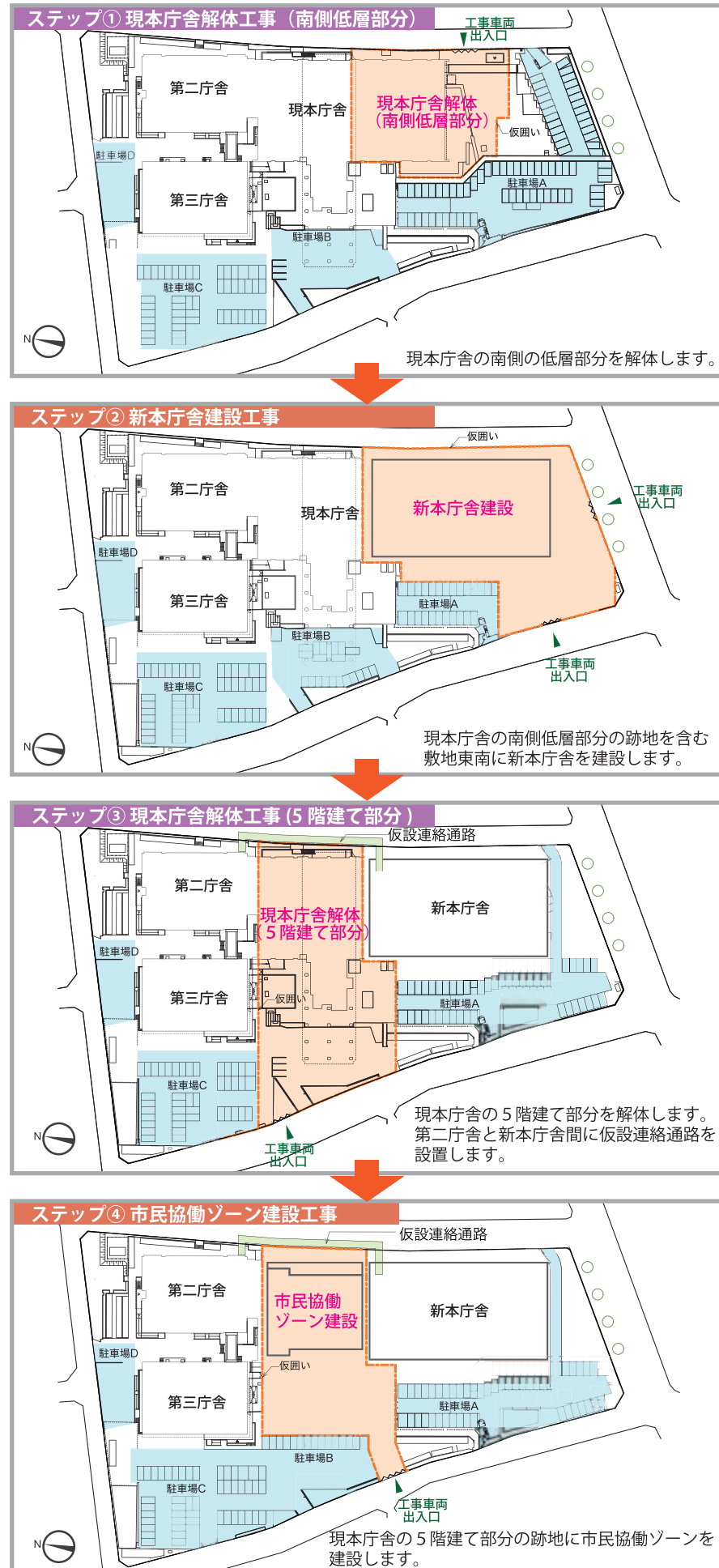
日光街道第三の宿場町として栄えた越谷の歴史を生かし、宿場町の特徴である格子戸と接客空間である「みせ」の領域を、来庁者の待ち合いスペースに取り入れます。



基本設計では、「人」「環境」「歴史」「安心」の4つの「つなぐ」を建設のコンセプトに、既存の親水空間や市民協働ゾーンのエントランスホールなどを活用し、にぎわいと魅力ある空間をつくる計画と

しています。また、防災拠点施設としての機能を確実に維持させるため、災害対策本部(兼庁議室)を設置し、庁舎を災害に強い構造とするなど、中核市越谷の新たな拠点となるよう整備します。

特集



## 新本庁舎、市民協働ゾーンを段階的に整備

計画では、今年度中に現本庁舎の南側低層部分の解体工事を開始し、平成35年度の市民協働ゾーン完成まで全体で約6年間の工事を予定しています。既存の庁舎を利用しながら行政運営に支障のないよう整備を進めるため、南側低層部分の解体後に

新本庁舎を建設し、早期に供用を開始します。  
 工事は下表およびステップ①④の図のとおり進行する予定ですが、今後も各工事の適正工期を検討し、事業期間の短縮とともに行政機能の維持と事業コストの縮減を図ります。

### 事業スケジュール

実施設計	平成 30 (2018) 年度
ステップ① 現本庁舎解体工事 (南側低層部分)	平成 31 (2019) 年度
ステップ② 新本庁舎建設工事	平成 32 (2020) 年度
ステップ③ 現本庁舎解体工事 (5階建て部分)	平成 33 (2021) 年度
ステップ④ 市民協働ゾーン建設工事	平成 34 (2022) 年度
外構工事	平成 35 (2023) 年度
立体駐車場工事	平成 36 (2024) 年度以降

仮設連絡通路の設置期間

## 新庁舎建設基本設計がまとまりました

### 環境にやさしく、耐久性や防災機能を高める工夫

新本庁舎は、建物の長寿命化を支えるさまざまな環境負荷低減の技術を取り入れ、CASBE E (※) による評価Aランクを目指します。また、免震構造の採用などにより、災害時に防災拠点施設としての機能を確実に維持できるようにします。

※CASBE E: 建築環境総合性能評価システム。環境性能評価の一つで建物の環境負荷低減等への対策を5段階で総合的に評価する。

ワンルーム型の構造にすることで、部署や組織の変更にも柔軟な対応が可能となります。また、高強度のコンクリートを採用し建物の耐久度を高めま

#### ECO 環境への配慮

用途ごとのエネルギー消費データを分析し、設備が効率的に機能するように自動的に制御します。また、除湿による過冷却や再加熱を防ぐシステムや、効率よく空調できる床吹き出し空調を採用し、室内空間の快適性を確保。建物の南面・東面には水平庇を設け、西面は壁面を主体としたデザインにするなど、方位に適した外装とすることによる日射負荷の抑制も行います。

また、執務室の天井や天井ダクトを無くすことにより、設備などが落下し業務が行えなくなることを未然に防ぎます。そのほか、災害時や送電事故の際にも電源の供給ができる方式を採用するなど、さまざまな方法により業務の継続性を高めます。

#### 長寿命 長寿命化を支える構造

執務室は、間に柱を置かない

#### BCP 業務継続計画

防災拠点施設の機能を確実に維持できるように、新本庁舎は1階の床の下に免震装置を設置する基礎免震構造とし、市民協働ゾーンは耐震構造とし、十分な耐震性を確保します。

#### LCC ライフサイクルコストの削減

汚れにくく清掃がしやすい窓回りの形状や仕上げとするほか、長寿命のLED照明の採用や井戸水の活用などで維持管理コストや運用コストを削減します。

